ふるさとを大事にできる子どもであってほしい

与謝野町教育委員会教育長　**長島　雅彦**

【ながしま・まさひこ】１９６０年、与謝野町生まれ。小中高と地元で過ごし大学へ。大学卒業後、一般企業に就職するも、その後、聴講生として教職課程をとり昭和６０年から教員の道へ。本年３月に府立峰山高等学校を退職し、７月１日から教育長に就任。大切にしている言葉「希望のあるところに道がある」

7月１日、長島雅彦教育長が誕生。初代教育長の垣中均（かきなかひとし）氏、前任の塩見定生（しおみさだお）氏の教育方針を受け継ぎ、長島教育長が目指す与謝野町の教育とは。今月号では、長島教育長の教育に対する考えをお伝えします。

※ 内容は７月12日の与謝野町有線テレビ収録時をもとに編集したものです

就任されて2週間程度ですがどのように過ごしていますか？

関係諸機関を回り、多くの方から本町教育への熱い思いと期待をお聞きしました。まさに身の引き締まる思いが日に日に高まってきています。また、教育委員会事務局の職員から課題や懸案事項等のレクチャーを受け、自らの知見を高めているところです。

教育委員会職員の意識はどう映っていますか？

それぞれの職員が使命感、本町教育に対する熱く強い思いを持ちながら日々業務を遂行していると実感しています。そして、学校教育課と社会教育課のチームワークの良さというのも、本町の教育委員会の大きな特色でもあると感じています。

また、本町の教育委員会委員とも会議の場を持たせてもらいました。以前から話を聞いていたとおり、活発なご意見や貴重なご意見をいただける充実した委員会が開催されていることを身をもって知ることができました。

人生に無駄はない

大学進学時から教師を目指していたのですか？

高校卒業後、少なくともそのときには「教師」は職業の選択肢にはなかったです。教えるということに関して、強い自信が自分の中にはありませんでした。大学卒業後は企業に就職していく道を考えながら進学をしました。実際、大学４年になり就職を決める際には「繊維関係」のメーカーを志望し、就職しました。

赴任した四国の工場には、働きながら定時制高校に通う生徒たちが勤務をしていました。その子たちに仕事の合間に勉強を教えることになり、そのときに教えることの大切さとおもしろさ、さらに学校という場所がいかに大事かということを痛感しました。大学に聴講生というかたちで戻り、教職課程をとって教職に就きました。ですから、少し回り道をしながらたどり着いて今に至っています。

回り道の人生の良さは感じますか？

最初から将来を決めていればもっと若いころからいろんな学びをしていただろうなと思うことはありますが、回り道をした中でいろんな人に出会い、いろんなことを考える機会を得ました。

だからこそ、同じように少し回り道をしている子どもたちの気持ちがよくわかるかなと思います。そして「人生に無駄はない、回り道も決して無駄はない」と思っています。

教育信条は「希望進路の実現」と「人権尊重」

子どもファーストの対応

教育信条に対する考えは？

子どもたちの可能性をどう広げていくかが、周りの大人や社会の役目だと思います。「希望進路の実現」というのは、その子の可能性を広げていくこと、つまり教育の一つの大きな目標だと思っています。ただ目標を実現していくときに前提になるのは「人権尊重」の意識です。全ての教育活動の土台に「人権尊重」の意識を強く持って仕事をしていくことが学校現場において、私は最も大事ではないかと考えています。

2つの信条が生きるときは？

子どもたちと同様、教員・職員も岐路に立つことがあります。例えば教員が困難なことに直面したときに子どもの立場で判断ができているのか、いわゆる「子どもファースト」で対応ができているのかということです。それは保護者の方も同様で、今後18歳で成人になり独り立ちしていく中で、今の段階でどういう判断が正しいのかというところで、大人側がいろんなかたちでアドバイスをできることがあるのではないかと思います。

与謝野町教育大綱

教育大綱とは

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の３の規定に基づき、与謝野町の教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めたものです。町長と教育委員で構成する総合教育会議において協議のうえ町長が策定するもので、町教育行政の指針となります。

与謝野町教育大綱の内容

教育理念

世界中の国や地域で、自らの責務を果たすことができ、自信と思いやりにあふれ、創造的に未来を開拓する精神をもつ人間を育む

基本目標

1　学力

児童生徒の学力の状況を的確に把握・分析し、個に応じた指導を実践することで、知的好奇心の向上を図り、質の高い総合的な学力を育む

2　思考力

創造性は与えられるものではなく、思考を通した適切なプロセスから得られる結果。ものづくりやデザイン教育を通じて、多角的な思考力を育む

3　体力

健全な心身の発達を促し、明るく豊かで生きがいのある生活を送れるよう、生涯にわたって体育・スポーツに親しむことができる資質や能力を育む

4　受容性

人権学習や異文化交流、与謝野学を通して、人の個性や価値観の多様性を認め、自他を尊重する心と実践力を育む

5　社会性

価値観が多様化する多文化共生の時代において、人間関係を形成し、円滑に維持するためのコミュニケーション力を育む

6　教育環境

家庭はすべての教育の原点。 ともに学び、成 長する喜びを分かち合う家庭教育を地域全体で支えるやさしい社会を育む

計画期間

平成３０年度～令和４年度